

非肥満におけるNAFLD発症の臨床予測モデル構築と評価

Nonalcoholic fatty liver disease (NAFLD)は、アルコールやウイルスを原因としない脂肪肝の総称であり、肥満人口の増加に伴ってその患者数は著しく増加している。NAFLDは進行型の肝障害や心血管疾患などのリスク因子であることから、重大な健康問題だと考えられている。

一般的にNAFLDは肥満と強い関連を示し、メタボ肝と呼ばれることもある。しかし、アジアを中心とした地域では、非肥満者においてもNAFLDが高頻度で見られ、これが問題となっている。特に非肥満者は体重や腹囲が正常であり、自覚症状もないため、脂肪肝の発見が遅れやすい。知らずに放置するケースや、気づいた頃には肝炎や肝硬変に進行しているケースも少なくないため、早期発見・治療が重大な課題となる。

そこで卒業研究では、非肥満型NAFLDの発症を予測する臨床予測モデルを構築・評価し、脂肪肝発症の予防・早期治療につなげることを目指す。

この抄読会では、NAFLDの疾患概要、リスク因子を検討した先行研究を紹介する。また解析の対象とする集団の適格基準・除外基準について検討し、今後の方針を述べる。

【参考文献】

1. 日本消化器病学会ガイドライン：<https://www.jsge.or.jp/guideline/guideline/naflld.html>
2. Kenichi Nishioji et al. Prevalence of and risk factors for non-alcoholic fatty liver disease in a non-obese Japanese population, 2011-2012 J Gastroenterol 2015 Jan;50(1):95-108. doi: 10.1007/s00535-014-0948-9.
3. Gen Yamada et al. Impact of Body Weight Gain on the Incidence of Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Nonobese Japanese Individuals. The American Journal of Gastroenterology: Volume 116, Issue 4, p 733-740, April 2021. Doi: 10.14309/ajg.0000000000001030